

尾瀬ネットワーク通信

Vol 11. No. 1 2008年5月



—————目次—————	
尾瀬にとって今年も多難な年に	……1
貴重な尾瀬の自然を後世に伝えよう	……2
2008年度 定期総会報告	……3
特別講演:尾瀬の音から自然をみる	……3
TOPICS	……4
事務局だより	……4

尾瀬にとって今年度も多難な年に

～2008年度定期総会あいさつから～

前理事長・高橋 喬

尾瀬にとって、2008年度も多難な年になりそうだ。昨年度から持ち越された幾つかの問題をどう捉え、どう対処していくべきか慎重に検討したいところであるが、尾瀬のシーズン入りまで時間は限られていて、正直のところ即効薬が見当たらずに困惑している。

そこで、2007～08年のオフシーズンに尾瀬の自然保護4団体で構成している尾瀬を守る会での討議内容や、07年11月と08年2月に開催された本会の理事会での検討内容を踏まえて、問題別に今後、どのように行動していくべきかを探ってみたい。

携帯基地局開設の問題

既にネットワーク通信でも紹介したが、昨年8月の片品村への承認申請に端を発したこの問題は、現在、群馬県の段階でストップしている。ただし、尾瀬を守る会の要望書に対する新知事の回答(片品村長のそれも)は、賛否どちらとも取れる歯切れの悪い表現に終始していて、捉えどころがないため、まったく予断を許さない状況にある。

当初、2段階での開設反対行動を考えてみた。1段目は、いわば先制ジャブのようなもので、尾瀬のシーズン入りと同時に現地でアンケート調査を行い、結果を関係先に示して開設に再考を促す作戦。アンケートの設問を初谷氏に作成してもらったが、結果的には第2段階の「署名運動だけで良いのでは」という意見もあり、最終結論に至っていない。

今後、運動をどう展開していくのかについては、ネットワークの次期執行部の英断と行動力に期待するしかない。

完全解決ではないヤマメ放流問題

この問題についてもネットワーク通信でお伝えしておいたように、利根漁協が尾瀬ヶ原での放流を今季から中止することを決めた。しかし、内容

をよく検討すると、これはまやかして、根本的な解決策にはならないことがわかる。

同漁協は、放流を中止する代わりに、河川に産卵場を設けて自然生態系の保護と増殖を両立させるとしている。マスメディアも指摘していないが、これには大きな疑問点が残されている。産卵する成魚が尾瀬の在来種の子マメなのか、それとも昨年までに放流された外来種(外国産ではない)の子マメなのか、誰にもわからないことだ。

もう1点は、群馬県側の利根漁協が放流を中止しても、福島県側の桧枝岐漁協が沼尻川での放流を今年も続ける方針だ。つまり、まだ手放しでは喜べない段階にある。

桧枝岐村への放流中止要請については先日、福島県自然保護協会の理事と福島県尾瀬自然保護指導員連絡協の代表と話し合い、できるだけ早く申し入れるよう提案した。申し入れには、ネットワークからも福島側の理事が同行してほしいと思っている。新たに尾瀬国立公園に編入された桧枝岐エリアの自然保護にどう取り組むかなど、まだまだ書きたいことはあるが紙面が尽きた。

退任の挨拶

ネットワーク発足以来、12年間にわたって理事長(発足当時は代表)を勤めさせて頂いたが、このたび、ようやくその任を解かれることになり、いささか感無量である。

これまで寄付金や助成金等の活動資金面で温かいご支援を頂いた企業・団体様に対し紙面を借りて衷心より厚く御礼を申し上げる。

また、愛する尾瀬のために積極的に活動を支えてくれた会員各位並びに永年にわたりにご指導とご協力を頂いた尾瀬関係者の皆様に対し深く感謝を申し上げたい。

結びにあたり、貴重な尾瀬の自然が永遠に護られることを強く訴えて退任の挨拶とする。

貴重な尾瀬の自然を後世に伝えよう

～理事長就任の挨拶～

新理事長 永島 勲

このたび、尾瀬自然保護ネットワークの2代目理事長に就任しました永島勲です。どうぞよろしくお願いたします。微力ではございますが、貴重な尾瀬の自然を後世に伝えるために、民間ボランティアの視点で本会の活動に全力で傾注する所存です。

平成9年に発足以来、「緑の地球防衛基金」様をはじめ多くの企業・団体様からの多大なご支援・ご協力を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。引き続き変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

生復元等は極めて困難になる。

⑧移入植物問題

従来の侵入原因に加え、尾瀬の平均気温上昇(地球温暖化の影響?)に伴い勢力を増す恐れがある。

⑨尾瀬国立公園誕生に伴う問題

昨年8月、日光国立公園から分離独立し会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山を編入して「尾瀬国立公園」が誕生した。知名度向上に伴う新たな問題として、入山者増加による植生への悪影響、オサバグサに代表される高山植物の盗掘、積雪期におけるスノーモービルの乗り入れ等を危惧する。

～尾瀬の抱える課題～

尾瀬は、日本の自然保護運動発祥の地として地道な保護運動の積み重ねにより、かろうじて今日の自然が保たれてきた。しかし、尾瀬には様々な課題が山積している。最近の主な課題を挙げると

①携帯電話基地局問題

特別保護地区内への通話エリアの拡大等、利用者利便の提供は安易に行うべきでない。

②至仏山の保全対策

東面登山道の登り一方通行、携帯トイレ利用の普及促進(下山口に回収ボックスの設置等)、登山道の付け替え、改正自然公園法に基づく利用調整地区制度(入山規制)の適用と手数料(入山料)徴収など注視すべき事項が多い。

③ニホンジカ問題

本会の8年間にわたる調査から尾瀬に生息する個体数は着実に増加している。シカによる湿原の植生破壊が大きな問題になりつつある。

④ヤマメの放流問題

特別保護地区における放流は直ちに中止すべきである。

⑤ツキノワグマ問題

野生動物と人間との共生という難しい問題を投げかけている。

⑥負の遺産問題

過去に埋設したゴミの撤去

⑦登山道周辺の裸地化問題

燧ヶ岳、至仏山、笠ヶ岳、会津駒ヶ岳などの登山道周辺の裸地化をこのまま放置しておく植

～特別保護地区の在り方～

尾瀬は自然公園法で「特別保護地区」に、文化財保護法で「特別天然記念物」に指定され、法律上最も厳しい規制の網がかけられている。

今、尾瀬の核心部が「特別保護地区」に指定されている意義が改めて問われている。尾瀬が尾瀬らしいのは、この特別保護地区に湿原を主体とした脆弱で極めて特異な生態系が存在するからだ。全ての尾瀬関係者は、尾瀬を国民共有の自然遺産として、今以上に自然の姿で子々孫々に伝える責務がある。特別保護地区における利用者利便の制限はより厳しく行い、安易に利便性や経済性を追求すべきではないと考える。済し崩し的に利用者利便の提供を繰り返すならば、やがて尾瀬も「ゆで蛙」の話ではないが、その価値を失うであろう。

～組織の強化～

山積する課題に着実に取り組んで行くには、NPO法人として活動会員の増加、会員一人ひとりの知識と実践力の向上、財政基盤の確立、他の団体との連携強化など、組織の足腰を強化しなければならない。

更に、会員相互のコミュニケーションの場として、外部への情報発信ツールとして、会報「尾瀬ネットワーク通信」と「ホームページ」の充実が緊急の課題として取り組みたい。

最後に、初代理事長として6期12年間にわたり本会発展の礎を築き、尾瀬の自然保護に尽力された高橋前理事長に感謝の意を表したい。長い間、本当にお疲れ様でした。

2008年度 定期総会報告 (敬称/役職省略)

1. 日時：2008年4月19日(土) 13:00～16:00
2. 場所：大宮ソニックシティビル 902会議室
3. 出席者：22名、委任状：30名
4. 出席者氏名：池田、磯部、伊藤、牛木、大橋、坂本、佐藤、椎名、鎮目、東雲、島上、清水、高橋、円谷、永島、長島、西山、初谷、前田(佳)、前田(悦)、深山、向井
5. 進行/開会宣言：磯部、議長：高橋、記録：椎名
6. 議題
 - 1) 高橋理事長あいさつ
 - 2) 2007年度活動報告
 - ①入山指導 福島側：佐藤、群馬側：清水
 - ②研修会 福島側：磯部、群馬側：永島
 - ③バス添乗室内研修会：円谷
 - ④指導員養成講座：永島
 - ⑤尾瀬ヶ原シカ調査報告書作製：坂本
 - 3) 2007年度会計報告：大橋
 - 4) 2007年度会計監査報告：深山
 - 5) 功労者への感謝状贈呈
 - 6) 役員改選
 - 7) 2008年度活動計画
 - ①入山指導 福島側：円谷、群馬側：清水
 - ②観察会・研修会 福島：磯部、群馬：清水
 - ③指導員養成講座：前田
 - ④尾瀬ヶ原シカ調査：前田
 - 8) 2008年度予算案：大橋
 - 9) 特別講演『尾瀬の音から自然をみる』
7. 議題の主な内容
 - 1) 2007年度活動報告

各担当理事より、活動報告が行われた。シカ担当坂本理事から「尾瀬ヶ原にシカを探す」8年間の報告書作成が披露され、出席者に配布された。
 - 2) 功労者への感謝状贈呈

会報誌編集：島上健、HP担当：東雲明、理事：赤塚耐三、坂本敏子、佐藤信良
- 3) 役員改選

理事長：退任 高橋喬、新任 永島勲
副理事長：留任 磯部義孝、新任 前田佳胤
退任理事：赤塚耐三、坂本敏子、佐藤信良
新任理事：初谷博、円谷光行、鎮目安康
留任理事：大橋文江、椎名宏子、清水博之、高橋喬
留任監事：深山美子、長島睦世
- 4) 2008年度活動計画
 - ①福島側入山指導・清掃(担当：磯部、円谷)
 - 第1回目 5月23(金)、24(土)、25(日)
 - 第2回目 6月13(金)、14(土)、15(日)
 - 第3回目 7月4(金)、5(土)、6(日)
 - 第4回目 7月19(土)、20(日)、21(月)
 - 第5回目 9月13(土)、14(日)、15(月)
 - 第6回目 10月11(土)、12(日)、13(月)
 - ②群馬側入山指導・清掃活動(担当：清水)
 - 第1回目 6月20(金)、21(土)
 - 第2回目 9月5(金)、6(土)
 - ③尾瀬ヶ原野生シカ調査(担当：前田)
 - 第1回目 6月21日(土)夜半
 - 第2回目 9月6日(土)夜半
 - ④笠ヶ岳 登山道観察会(担当：清水)

7月25(金)、26(土)、27(日)
 - ⑤指導員養成講座(担当：前田)
 - ・室内研修 7月26(土)
 - ・現地研修 8月22(金)、23(土)、24(日)
 - ⑥研修会・観察会
 - ・残雪期の尾瀬沼：5月4(日)、5(月)
 - ・新緑の尾瀬ヶ原北面～東電の散策：5月24(土)
 - ・帝釈山田代山調査植物観察会：6月14(土)
 - ・会津駒ヶ岳研修会：7月5(土)、6(日)
 - ・尾瀬沼植物観察会：7月20(日)
 - ・大杉岳登山：10月12(日)
 - ⑦会報誌発行：年4回(5、8、11、2月)

特別講演『尾瀬の音から自然をみる』

前田 佳胤

今年の総会での特別講演のテーマは「尾瀬の音から自然をみる」と題して日本では数少ない自然の音の研究者である千葉県立中央博物館の大庭照代先生が尾瀬や街で録音された音を比較しながら進められた。

普段何気なく聞き流している様々な音(声)を

自然観察の基本である五感を働かせて耳を澄まして聞いてみると、自然の中で素敵なハーモニーを構成していることに気がつく。

尾瀬で録音された音には鳥の囀り、風の音、水の音、人のざわめき等明け方、昼、夕方、時間によって、それぞれ違った趣がある。

いずれも街の雑踏とは異なった私達の心を癒してくれる快い音である。

この心地よい自然が奏でるハーモニーの中に携帯電話のような人工的な音は必要なのだろうか？やはり尾瀬には自然が奏でる音が似合う。「これは何の音？」「これはどこの音？」「これ

はどんな音？」チョット立ち止まって自然の中に自分を置いて「キキミミ」を立ててみると今までとは違った尾瀬が見えてくるかも知れない。そんな事を考えさせられた講演であった。

【TOPICS】

今月（5月）の尾瀬の様子は、

- 1、ゴールデンウィークの「燧ヶ岳」です。雪の「逆さ燧」が、美しいです。



《2008年
5月5日》

《尾瀬沼東岸より燧ヶ岳》

- 2、鳩待峠と山の鼻間にまだ残雪があります。一部木道を覆っているので歩行注意！
- 3、ミズバショウとリュウキンカが盛りです。尾瀬ヶ原の春が、始まりました。



《2008年
5月24日》

- 4、牛首三叉とヨッピ橋の間にシカのヌタ場がたくさんできています。食痕も木道のそばで見ることができます。



《2008年
5月24日》

- 5、ゴールデンウィークの沼山峠周辺の樹林帯

（積雪1.2メートル程）や大江湿原の上流部では雪面にシカの糞や足跡が広範囲に見られます。季節移動によるシカなのか、あるいは尾瀬で越冬するシカなのかは分かりません。

- 6、ヨッピ橋と東電小屋の間の木道が2箇所高さ1.3mほどの高架木道になっています。熊が木道の下を通るそうですが、構造から見て熊が通り抜けるのは難しそうです。誰が熊と約束したのでしょうか？

事務局だより

- ① 4月24日
 - ・会員に活動計画及び決算報告を発送・椎名理事
 - ・理事長交代の挨拶状と鹿の調査活動報告書を持参し、参議院 大石 正光議員、谷 博之議員、衆議院 小宮山 洋子議員を表敬訪問・・・椎名理事
- ② 4月30日
 - ・日本自然保護協会の尾瀬担当 辻村千尋氏を訪問・・・椎名、前田の両理事
 - ・理事長交代の挨拶状と鹿の調査活動報告書を持参し、養成講座募集について会報「自然保護」への掲載を依頼
- ③ 5月9日
 - ・会津バスの田島営業所を表敬訪問・・・永島、磯部、円谷の3理事

【お知らせ】

会報誌編集・ホームページ担当者が変わりました
 会報誌編集担当：島上 健 → 鎮目 安康
 HP担当：東雲 明 → 島田 富夫
 島上・東雲両氏には、長期間に亘りご尽力頂きました。

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.11 No.1号 2008年5月20日 発行

発行人：永島 勲

編集担当：鎮目 安康

Web担当：島田 富夫

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203 (株)SEC 内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

Web：http://www.geocities.jp/oze_net/

